

大井戸八木遺跡からみた小糸川



小糸川や周辺の低地を見下ろし、晴れた日には富士山を望む丘陵上にある大井戸八木遺跡では、旧石器時代や縄文時代から人間の営みがあった証となる石器や土器が出土しています。今から約1800年前の弥生時代後期から約1600年前の古墳時代前期にかけて集落が営まれていました。その後、丘陵上では古墳や方形区画墓(奈良・平安時代)がいくつも築かれ、長い間、墓域として利用されるようになりました。そして、人々の居住地は低地へと移動したと考えられます。

市指定文化財・大井戸八木遺跡出土の小銅鐸及び装飾品 指定記念公開展

「小糸川を見下ろす大井戸八木遺跡の姿」

編集・発行 君津市教育委員会文化振興課

〒299-1192 千葉県君津市久保二丁目13番1号

TEL : 0439-56-1422

発行日 平成24年12月7日

小糸川を見下ろす 大井戸八木遺跡の姿

市指定文化財・大井戸八木遺跡出土の小銅鐸及び装飾品 指定記念公開展



大井戸八木遺跡は、砂利採取事業に伴い、昭和63年度から平成7年度まで発掘調査が実施され、弥生時代後期から古墳時代前期の多数の竪穴住居跡や、古墳時代後期の円墳などがみつかっています。

なかでも、弥生時代末期から古墳時代初頭（3世紀中頃）の墓跡である方形周溝墓と土坑墓からは、千葉県内でも出土例の少ない小銅鐸、銅釧（腕輪）、鉄釧（らせん状の腕輪）、ガラス小玉、管玉、勾玉、水晶棗玉などが出土し、平成23年12月に出土品108点が市の指定文化財に指定されました。



1号土坑墓(小銅鐸・銅釧・玉類出土状況)

小銅鐸が銅釧や玉類とセットになっているのは珍しく、弥生時代から古墳時代初めにかけての君津地域の墓制を知る上で大変貴重な資料となります。



1号方形周溝墓(玉類出土状況)



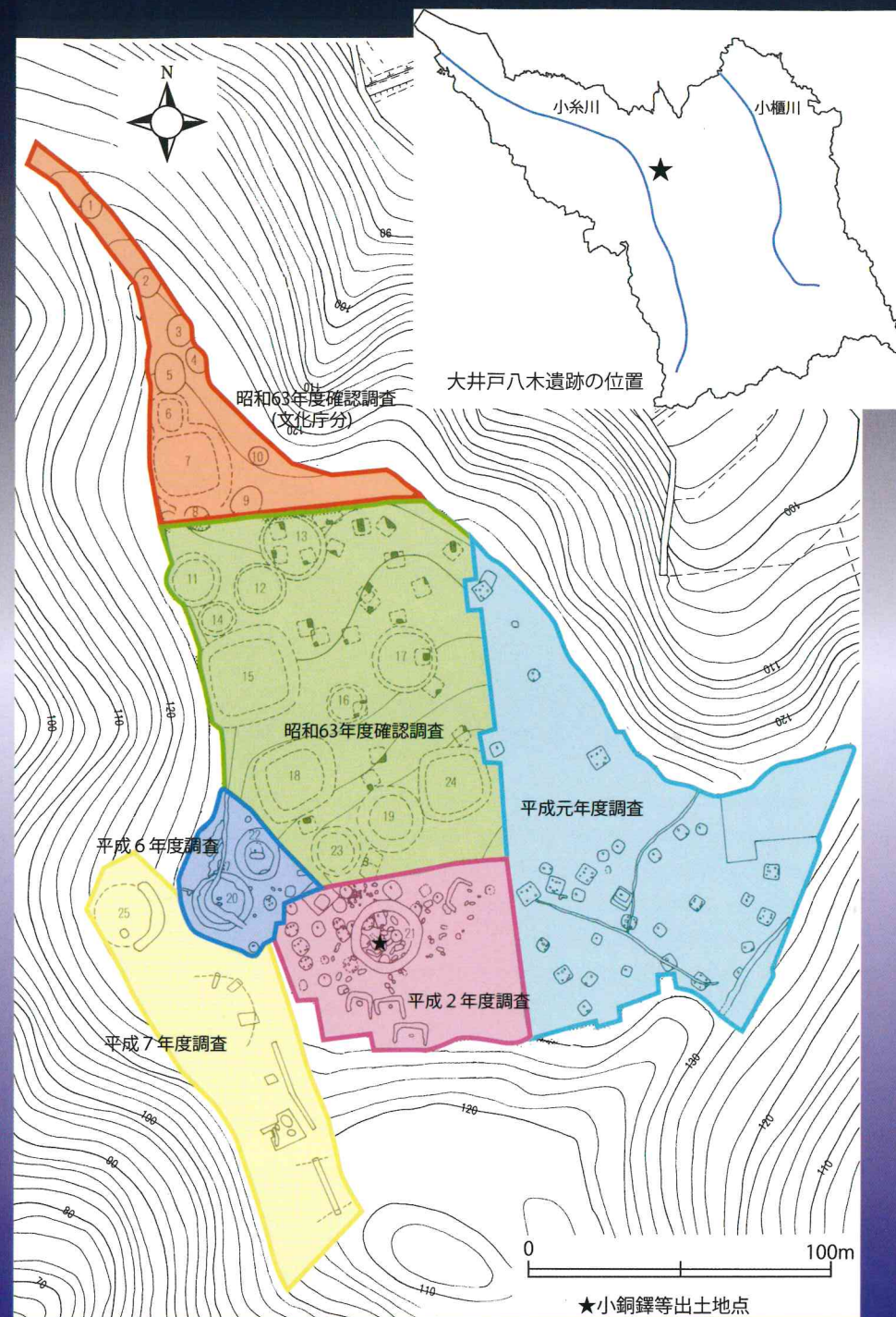
1号方形周溝墓(鉄釧出土状況)

鉄釧の内側と外側に、布がついており、内側と外側で布の種類が異なる可能性があります。



3号方形区画墓埋葬施設(土師器出土状況)

これら土師器は、奈良・平安時代のもので骨蔵器として利用されていました。骨蔵器は、火葬した骨を入れる容器で、この頃、君津でも火葬が行われていたことがわかります。



大井戸八木遺跡全体図